

「親亡き後等の問題」を構成する現状の問題点（整理表）

分 類	現状の問題点	資料 2 のNo.	委 員 名
相 談	相談支援をするコーディネーターの担い手がない	1	河村②
	問題を発見していく仕組みがない	1 2	
	「親亡き後等の問題」を想像できない		瀧口①⑥
	保護者が支援を必要とする声を発信できずにいる		河村①
	相談機関が不足している		松永①
住 居	選択肢が限られる	2	河野①、田中①⑥、松永③、 湊①
	暮らす経験ができる施設がない	9	田中②③
生 活	情報の流れが繋がっていない	7	瀧口⑪、阿南①
	日中活動の場が不足している		河野⑤、田中⑤
	生活訓練の場が不足している		河野⑥
	結婚しにくい		瀧口⑩
	集いの場が不足している		田中④、松永②
支 援	保護者に代わる人の担い手がない	3	湊②、大久保②
	「親や家族が障がいのある人の面倒をみる」システムになっている	6	河村①、瀧口③
	社会が支えるという仕組みがない	8	石原①、大久保①
	障がいのある人を支えるネットワークがない（頼れる人が不足している）	1 0	田中⑨
	障がいのある人に「人に助けてもらう力」がない	1 1	
	親離れ、子離れが安心してできない	1 3	河野⑨、瀧口②⑦、矢野①
	親が高齢化したときの「親の介護」と「子どもの障がいのケア」とを両立させることの困難	1 4	瀧口④

分 類	現状の問題点	資料2のNo.	委 員 名
支 援 (つ づ き)	社会参加への支援が不足している		河野⑧
	障がいのある人を支援する人材が不足している		田中⑨
	家族を支える支援がない		瀧口⑪
	市職員の理解が不足している		瀧口⑬
	官民が一体となって行動できる事業がない		松永⑤
	親が安心して子どもを託せる専門スタッフが少ない		松永⑥
	支援の質が低い		松永⑦
	障がいのある人の身の回りの世話をする人が固定化している		河野③
生 計 費	経済面（収入が少ない）	5	河野②、田中⑦、瀧口⑧⑨⑫、 湊④
	労働、雇用の場が不足している		松永④
成 年 後 見 制 度	成年後見人の担い手がない	4	河野④、湊③
	制度自体が理解されていない		田中⑧
地域社会との関係	地域社会とのつながりが薄い		河野⑦、瀧口⑤、湊⑤